# 波佐文化協会の歩み（PDF版）

# ①

## 1. 生涯学習による町おこしの実践

- 『波佐成人学級』の開講
- ミニコミ誌・季刊『なわて』の発行

# 生涯学習による町おこしの実践

波佐文化協会

1972年～2015年

# ふるさとカルチャー43年の歩み

「日本人の旅と冒険」の模様

# 波佐文化協会の発足

　昭和42年頃、森戸辰男氏から「終生学習」の色紙を頂き、生涯学習の大切さを学んだ。ユネスコのポールラングラン博士の『生涯学習論』の影響を受け、昭和47年8月に、上田房一、槇田修身、隅田正三の発起により、「波佐文化協会」を設立して、「生涯学習による町おこし」を実践した。

　以下、生涯学習による町おこしの実践に取り組んだ43年間の活動記録を報告します。

波佐文化協会

# 生涯学習に目覚める

森戸辰男氏を通じて、ポール・ラングラン博士の『生涯教育論』に出会う。

社会教育による町づくりを決心する。

# 町づくりは人材育成から

① 昼間に働く人へ夜間開講の
成人学級で生涯学習推進。

② 実践的社会教育の推進で
人材育成。

③ 地域まるごとミュージアム
基本は「学べる博物館」の
構築にある。

# ① 手づくりのふるさとカルチャー

- 過疎・出稼ぎ・高齢化による閉塞感を打開するために生涯学習によるコミュニケーションの復活を目指すことを目的に、昭和47年8月1日に波佐文化協会を設立した。

① 波佐成人学級の開設
② 野外研修の実施
③ 文化祭の開催
④ キャンプファイヤーの実施
⑤ 座談会・記念講演・映画会・特別展の開催

# 波佐成人学級（周年開講）

- 日中働く者の公的社会教育(8:30～17:15)の谷間からの出発で、民間指導型の夜間（20:00～22:00）に学習をする新しい成人教育（受益者負担）を誕生させた。

① 募集＝毎年4月。開講期間＝5月～翌年3月

② コース＝最高で年間14教室。延244日（月1～4回）年間11～44回。時間数＝年間22H～88H。

③ 受講料＝1科目・1H当り100円（当初は50円）。

④ 受講生は全ての課外活動に参加できる。

⑤ 修了証（受講証明書）を交付。皆勤賞・精勤賞も交付。

※全て民間指導型で10年間企画・運営して、11年目に波佐公民館事業として運営形態をそのまま引継ぎ現在まで継続推進されている。

# はじめに

昭和四十七年八月一日に波佐文化協会が誕生して、このほど満二十五周年を迎えました。波佐文化協会が誕生した経緯は、働く人へも平等の学習機会を提供し自ら生涯学習に取り組む意識の種を蒔き、それが発芽し、成長して、実を結ぶようにさせたいと、念願して三人の有志が出資して、波佐文化協会を設立にこぎつけ、運営母体となる発起人を募りスタートしました。

今でこそ、社会教育といえば馴染み深い名称になっているが、二十五年前には、参考図書すら目にする機会も皆無であった。当時は社会教育に関して地方自治体において実施されているのは極く短期間集中型の学習あるいは数カ月で終わる学習形態が主であったように思う。また昼間の時間帯に執り行われる学習が主であった。

この為、昼間働く労働者は学習機会に参画できないのが実情である。そこで、意欲のある者の学習集団をつくり、受益者平等な負担をしてでも、夜間に学習することはできないであろうかと模索した。当時は町内に公民館は皆無で、学習の会場を選び、借用できるかが大きな障害であった。

先ず小学校へ打診した結果、幸いにも夜間に限り一教室を借用することができた。また消防ポンプ詰所、農協の二階などを借用して波佐成人学級をスタートすることとなった。こうしてスタートした成人学級活動、地域のミニコミ誌「季刊なわて」、リーダー養成講座「波佐寺小屋セミナー」の開講、ふるさとカルチャー「なわて塾」の開設、文化諸活動の実施、郷土の傑人の発掘・顕彰運動の推進など、一環した社会教育活動を推進して参りました。以下項をおって記載することといたしたい。

『金城の風土記』(1998年刊)から

## Ⅰ　手づくりのふるさとカルチャー

### 1　公的社会教育の谷間からの出発

#### (1)　成人教育の役割としての社会教育

昼間の労働、夜間の学習ということに深いこだわりをもち続けていた。とりわけ、学習機会の均等化には程遠いものであった。公的機関での主催される生涯学習はウィークデーにおいては受講が難しい面がある。

学習計画は年間カリキャーラムを組み、自ら学ぶ、学ぶ姿勢、学ぶ過程を重視する方向でこそ、相乗効果があがる。学習経費は受益者の平等負担が原則である。と提案して、理解を得て実施した。即ち、自己啓発に目覚めた地域づくりのスタートであった。学級費も一時間あたり五十円、二時間で百円という格安の経費で実施した。このため、複数による平行学習も条件的に喜ばれたのである。発足当初は、講師先生方にもボランティアに近い謝礼でご支援をいただいたのである。

#### (2)　成人教育と地域住民のコミュニティの復活

昭和三十年代後半からテレビの普及、洗濯機、冷蔵庫など電化製品の購入や農作業の機械化に伴う農機具代金の支払いのため現金収入の途が必要となり農閑期の出稼ぎに拍車がかかってきた。三十八年の豪雪により離村者も増加した。併せて四十年代には地区内の過半数以上が出稼ぎ家庭となり出稼ぎ最盛期となっていった。

こうした社会的現象から出稼ぎ家庭と在宅家庭において出稼ぎを優越視することからコミュニケーションの欠如により意志疎通を欠くことになる。

過疎、出稼ぎ、コミュニケーションの復活を目的に「波佐成人学級」を主宰して生涯学習を媒体とした町おこしを実践することとなった。

この結果、地域の教育力が高まり、何事にも前向きに考える方向性が見えて来るようになった。

## 2　民間指導型の新しい成人教育

### (1)　波佐文化協会の設立

「生涯学習」は生涯にわたって学び続けることが基本理念であり、継続することに意義があるのである。当時、文化活動に関心のある槙田修身、上田房一、隅田正三の三名は生涯学習を推進するために互いに出資金を出し合って「波佐文化協会」を設立した。

波佐文化協会は昭和四十七年八月一日に設立し、八月十六日に第一回講演会を農協波佐支所の二階で実施した。この時の演題は「美しい村づくり」と題して美又小学校の河野明校長先生にお願いして開催した。約三十数名の聴講者ではあったが、何分初めての試みとしては成功であった。

文化協会設立は先行き不透明なモデルの無い船出であった。「生涯学習」が必要というユネスコの提唱された社会教育の原点を柱に滑り出したのである。

# 「波佐成人学級」

昭和47年10月
～昭和57年3月

### (2) 生涯教育としての『波佐成人学級』の開設

年間を通じて社会教育としての学習をして行こうと「波佐成人学級」と名付けて昭和四十七年八月末日以来、学級生を九月二十日締切で募集して、七十四名の学級生を集め十月三日午後八時から波佐小学校において開講式を行った。当初は書道教室と謡曲教室の二教室を初年度は実施することとした。

**◎ 昭和四十七年度(第一期)波佐成人学級は、二教室を開講。**

書道教室（講師＝日野原正先生）
会場＝波佐小学校理科室
開講時間＝二十時間。受講生＝三十四名。
学習内容＝永字八法、間架結構法、字体の構成など、日本習字のテキストにより学習。
部長＝上山均、副部長＝小林サチ子・小田美恵子。

謡曲教室（講師＝平野敏先生）
会場＝消防ポンプ倉庫（弐手原）
開講時間＝四十八時間。受講生＝四十名。
学習内容＝「能と謡について」学習の後、鶴亀。橋弁慶。吉野天人。大佛供養。土蜘蛛。竹生島。菊慈童。経正など観世流謡曲本により学習。
部長＝榎時男、副部長＝上山久男・芹原博正。

◇ 波佐成人学級開講式
とき　昭和四十七年十月三日
ところ　波佐小学校理科室
開講式　式次第
一　互　礼
一　開式のことば
一　発起人あいさつ
一　教育長訓辞
一　来賓あいさつ
一　講師紹介
一　講師あいさつ
一　学級生確認
一　閉式のことば
一　互　礼
学級編制、部長・副部長選出、伝達事項。

◇ 新年素謡会（昭和四十八年一月五日）
ところ　波佐消防ポンプ詰所

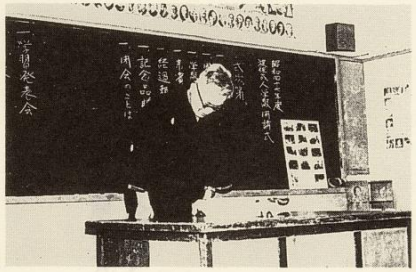
◇ 新年書き初め会（一月九日）
ところ　波佐消防ポンプ詰所

書道教室（新年書初め大会）

書道教室学習風景

成人教育講座で謡曲教室の発表

謡曲教室（新年素謡会）



成人学級閉講式(S48.3)

◇「町政懇話会」の開催

とき　昭和四十八年二月二十八日

ところ　波佐消防ポンプ詰所

参加者　三十四名

議題　町議会報告

　波佐地区の振興について

　社会教育活動について

◇金城町成人講座

波佐成人学級発表会（雲城小学校体育館）

○書道（条幅作品）二十四点

○謡曲（竹生島）二十名

◇波佐成人学級閉講式

とき　昭和四十八年三月二十五日（日）

ところ　波佐小学校講堂

◎閉講式（修了証授与）

式次第

一　互礼

一　開式のあいさつ

一　学級長あいさつ

一　来賓あいさつ

一　経過報告

一　記念品贈呈

一　閉式のあいさつ

◎波佐成人学級発表会

素謡会

鶴亀　シテ　竹本　怜　ワキ　佐々木八重子

竹生島　ツレ　隅田正三　シテ　榎　時男　トモ　斎藤良治　胡蝶　上田房一　頼光　小林定雄　シテ　槙田修身　ワキ　山崎義高

土蜘蛛

附祝言

◎座談会

昼食

◎教育映画会（公民館、あととりを考える、美しき文化と伝統、森林は生きている）



◎昭和四十八年度（第二期）波佐成人学級は、五教室を開講。

書道教室（毎月第一・三火曜日）

講師＝日野原正先生

開講時間＝四十六時間。受講生＝二十七名。

出席率＝六一・七％

日本習字をテキストに条幅レポート三回、半紙約五十枚

部長＝上山均、副部長＝小林サチ子・小田美恵子。

謡曲教室（毎週金曜日）

講師＝平野敏先生

開講時間＝八十八時間。受講生＝十二名。

出席率＝八一・六％

鶴亀、橋弁慶、吉野天人、大仏供養、土蜘蛛、竹生島、箙、菊慈童、巴、経正、猩々、羽衣、紅葉狩、東北、敦盛、田村などを学習する。

部長＝榎時男、副部長＝上山久男・佐々木八重子。

囲碁教室（毎月一回）

講師＝坂本進先生

開講時間＝八十五時間。受講生＝十名。

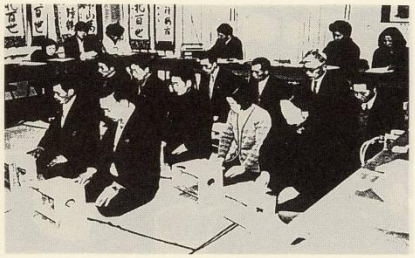
出席率＝六七・七％

囲碁教室の外に年間四回囲碁会を開催する。

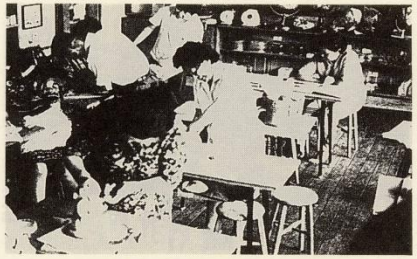
第一回優勝＝田中哲彦

書道教室受講生の皆さん

囲碁教室受講生の皆さん



謡曲教室受講生の皆さん

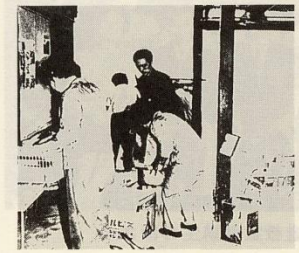


楽焼教室受講生の皆さん

第二回優勝＝青木覚
第三回優勝＝橋本幸男
第四回優勝＝相木正男
部長＝三浦哲夫、副部長＝加納昭則。
文芸教室（毎月第一土曜日）
講師＝岡本良生先生
開講時間＝二十二時間。受講生＝十三名。
出席率＝五八・三％
献題、席題により学習する。
部長＝西林寅夫、副部長＝山崎義高。
楽焼教室（第二土曜日）
講師＝日野原正先生
開講時間＝三十時間。受講生＝十八名。
出席率＝四八・六％
茶碗、灰皿、花瓶、つまようじ立て、風鈴、湯のみ、絵皿、虎など約一五〇点制作する。
全教室平均出席率＝六三・六四％
部長＝小林定雄、副部長＝三浦禮子。

◇波佐成人学級開講式（四月二日）
◇社会教育運営委員会（四月五日）

◇波佐成人学級野外研修（ハイキング）
とき　昭和四十八年六月十七日（日）



深入山ハイキングのスナップ



ところ　広島県戸河内町　深入山～三段峡～加計養魚場
参加者　平野先生、岡本先生、槇田修身、上田房一、隅田正三、斎藤良治、斎藤カヨ、竹本怜、佐田昭子、古和富士子、岡本清志、岡本タヨ、佐竹操、清水晃、榎並貞子、田中タキヨ、上山均、上山信人、沖田茂、沖田トシエ、相木正男、相木ナミエ、植田栄枝、小林サチ子、小林定雄、槇田綾子、能海俊子、橋本八恵子。
（以上二十七名）

◇懇話会「町長を囲んで」を開催
とき　昭和四十八年八月二十九日
ところ　農協波佐支所二階
参加者　十九名

◇波佐成人学級年始会&波佐成人学習発表会
とき　昭和四十九年一月十二日　午後六時～十一時
ところ　農協波佐支所二階
参加者　三十九名

一　年頭のあいさつ
一　素謡（鶴亀、朝）謡曲部
一　お隣り紹介
一　レクリエーション・ゲーム
一　プレゼント交換
一　記念撮影
一　宴会

成人学級年始会

一　歌唱指導・ゲーム
一　閉会

◇閉講式　昭和四十九年三月二十四日(日)
ところ　農協波佐支所二階
◎和紙ちぎり絵講習会(九時～十一時)
講師＝安来高校教諭　亀井健三氏
◎学習発表会(十三時～十四時)
小謡(難波・羅生門・鞍馬天狗)
レクリェーション
◎閉講式(十四時～十四時半)

式次第

一　開式の辞
一　教育長あいさつ
一　祝電披露
一　学習経過報告
一　記念品贈呈
一　来賓祝辞
一　修了証授与
一　講師総評
一　学級性代表謝辞
一　閉式の辞
◎座談会(十四時半～十五時)
(この一年に学んだもの)
◎教育映画会(十五時～十七時)

成人学級年始会

謡曲教室(観世流交流会)

ちぎり絵教室の模様

ちぎり絵教室



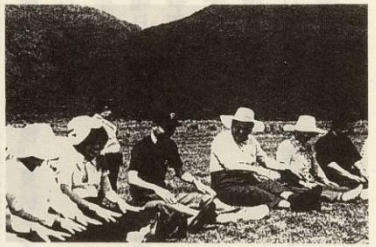
◎昭和四十九年度(三期)波佐成人学級は、八教室を開講。

書道教室(講師＝日野原正先生)
開講日(第一・三火曜日。受講者数＝四十名)
学習内容＝日本習字テキストにより学習。
謡曲教室(講師＝平野敏先生)
開講日(第一・二・三金曜日。受講者数＝十三名)
学習内容＝小袖曽我。田村。船弁慶。小督。富士太鼓。安達原など。
特産教室(講師＝浜田農林改良普及所指導員)
開講日(第二・四木曜日。受講者数＝十七名)
部長＝沖田茂、副部長＝青木幸春。
学習内容＝畑わさびの栽培技術。クリの栽培技術。ユズの栽培方法。果樹の剪定と整枝。夏秋トマトの栽培。ユズ栽培などを学習。
囲碁教室(講師＝阪本進先生)
開講日(第一・二・三月曜日。受講者数＝二十一名)
学習内容＝阪本杯カップ争奪六回～九回ほか。
文芸教室(講師＝岡本富多子先生)
開講日(第二火曜日。受講者数＝十名)
学習内容＝毎月席題を設けて学習。その成果として毎月「せせらぎ」機関紙を発行。
生花教室(講師＝横山洋甫先生)
開講日(第一・三水曜日。受講者数＝四十九名)
学習内容＝町内に自生する野の草花を生ける。
楽焼教室(講師＝柳楽義道先生)
開講日(第二水曜日。受講者数＝二十三名)
学習内容＝楽焼窯の構築と窯焼きを学ぶ。
和紙ちぎり絵教室(講師＝亀井健三先生)
開講日(第二土曜日。受講者数＝十九名)
学習内容＝テキストによる学習。

成人学級閉講式(S50.3)

町政座談会の模様

## 三瓶山ハイキングのスナップ写真(S49.6)



◇昭和四十九年度事業経過報告

六月一六日　三瓶山ハイキング（五十二名）
八月　十　日　フォークダンス教室（二十二名）
八月二三日　キャンプファイヤー（波佐小校庭五十名）
十月三一日　ワサビ栽培技術講習会（小野原・三十九名）
十一月三日～四日　波佐成人学級文化祭（来場者五〇〇名）
　ユズ苗木の植え付け勧奨運動推進。
十二月十五日　楽焼「亀遊山」窯完成。
十二月二一日　キャンドル・サービス（二十二名）。
一月十二日　年始会（五十四名）。
三月二三日　成人学級閉講式。
　記念講演『島村抱月の仕事』
　～日本近代文化史の一断面～
　講師・岩町　功先生

岩町先生の講演

講演後の懇談会

生花教室

楽焼教室

キャンドル・サービス

キャンプファイヤー

# 波佐公民館の管理運営の受託

- 波佐公民館は、昭和49年に新築され、1年間は、主事が1名配置されたが、50年度からは、民間委託（文化的団体）となった。
- 昭和50年度から平成5年度までの19年間にわたり、波佐文化協会が受託し、週6日開館運営した。この間他地区の5つの公民館建築等に波及効果があった。
- 平成6年度には、公民館が改築され、公民館類似施設となり、他地区の運営形態に合わせるということで、自治会委託となった。
- 平成17年10月に新浜田市に合併して、教育委員会管理となった。

◇キャンプファイヤー
日時　八月二十二日(金)
◇波佐成人学級文化祭（来場者六五〇名）
日時　十一月二日(日)～三日(月)
◎特別展「池田一憲作品展」
・民話　・ふるさとを守る人　・農婦
◎記念行事「謡曲部素謡会」、「記念囲碁大会」
◎「郷土の傑人顕彰板」の募金運動を推進
◇キャンドル・サービス
日時　十二月二十一日
◇成人学級年始会
日時　一月十日(土)
◇波佐地区特産振興座談会
日時　三月十八日(木)・波佐公民館和室。
◇成人学級閉講式
日時　三月二十日(土)・波佐公民館。
・閉講式
・記念講演「これからの農業」
講師＝久宗　壮先生（岡山県久米町）
・茶話会

能海寛遺品展

池田一憲作品展

波佐成人学級文化祭(S50.11)

文化祭記念囲碁大会



## 昭和５０年度波佐成人学級スナップ写真

◎ 昭和五十一年度(第五期)波佐成人学級は、十一教室を開講。

書道教室（講師＝日野原正先生）
受講者数＝十二名、開講日数＝十六日。
部長＝上山均、副部長＝佐々木フサノ。
学習内容＝日本習字のテキストを使用。
開講時間＝三十六時間。出席率六一・八％。
皆勤賞＝一名（沖田茂）
精勤賞＝三名（岩田静江、上山均、植田栄枝）

謡曲教室（講師＝平野敏先生）
受講者数＝十五名、開講日数＝三十日。
部長＝竹本怜、副部長＝竹田聰。
学習内容＝経正、清経、竹生島、鵜飼、天鼓、吉野天人、東北、賀茂、羽衣、百萬。
開講時間＝六十時間。出席率六五・四％。
皆勤賞＝なし
精勤賞＝七名（斎藤良治、山崎義高、槙田修身、上山久男、竹本怜、小林定雄、沖田千鶴子）

特産教室（講師＝林和雄先生）
受講者数＝二十五名、開講日数＝十七日。
部長＝酒井忠雄、副部長＝上山久男。
学習内容＝従来の特産教室の外に施設園芸部門も加えて施設園芸を学習して安定した農業所得を得るための基礎的学習をする。ビニールハウス栽培、ユズ栽培、田植え前後の管理、野菜に対する農薬の使用について、野菜の栽培、基盤整備について、特産について。
開講時間＝三十四時間。出席率五六・八％。
皆勤賞＝なし
精勤賞＝なし

生花教室（講師＝横山洋甫先生）
受講者数＝十五名、開講日数＝十八日。
部長＝能海歌子、副部長＝美川良恵。
学習内容＝野の花を生ける。自由態、葉組、飾生態、斜生態、格花三才、盛花斜生態変型、自由花、正月用生花、自由課題。
開講時間＝三十六時間。出席率四七・四％。
皆勤賞＝なし
精勤賞＝五名（岡本タヨ、日高善春、美川良恵、岩田静江、相木多美代）

楽焼教室（講師＝福郷宗悦先生）
受講者数＝六名、開講日数＝十四日。
部長＝小林定雄、副部長＝岡本正儀。
学習内容＝粘土の選び方、形成、乾燥、素焼き、絵付け、窯入れ、窯炊きなど。



開講時間＝二十八時間。出席率七〇％。
皆勤賞＝なし
精勤賞＝三名（小林ウメ、古和富士子、小林定雄）

俳句教室（講師＝岡本富多子先生）
受講者数＝六名、開講日数＝十日。
部長＝石田村一、副部長＝加納美代子。
開講時間＝二十時間。出席率七六・七％。
皆勤賞＝二名（西林寅夫、上田房一）
精勤賞＝二名（石田村一、田中タキヨ）

短歌教室（講師＝限定しない）
受講者数＝十名、開講日数＝十一日。
部長＝佐竹邦夫、副部長＝佐々岡芳高。
開講時間＝二十二時間。出席率六五・五％。
皆勤賞＝二名（上田房一、上田貢）
精勤賞＝三名（佐々岡芳高、佐竹邦夫、田中タキヨ）

囲碁教室（講師＝限定しない）
受講者数＝六名、開講日数＝九日。
部長＝隅田哲夫、副部長＝佐々岡稔。
開講時間＝三十時間。出席率四六・六％。
皆勤賞＝一名（隅田哲夫）
精勤賞＝なし

郷土史教室（講師＝山藤忠先生）
学習内容＝地元の古文書をテキストに用いて古文書の読

文化祭記念囲碁大会

文化祭記念素謡会

解力を養うと共に、その歴史的背景にあるものを学ぶ。
受講者数＝二十一名、開講日数＝十日。
部長＝加納昭則、副部長＝横山洋子。
開講時間＝三十時間。出席率六五・四％。
皆勤賞＝一名（隅田正三）
精勤賞＝七名（田中宅次郎、相木正男、上田房一、萬代繁一、加納昭則、佐々岡芳高、横山洋子）

ちぎり絵教室（講師＝亀井健三先生）
受講者数＝十一名、開講日数＝十日。
部長＝上山信人、副部長＝幸田民子。
開講時間＝二十時間。出席率六二％。
皆勤賞＝二名（岩田静江、隅田正三）
精勤賞＝一名（上山信人）

レク教室（講師＝有田貞吉先生）
学習内容＝地元の民謡の伝承と習得のため祝い込長持ち唄、引受、木挽き唄、地づき唄、草刈り唄、粉ひき唄などを学ぶ。
受講者数＝六名。開講日数＝六日。
部長＝岡本利道、副部長＝相木多美代。
開講時間＝十二時間。出席率七〇・九％。
皆勤賞＝なし
精勤賞＝四名（隅田正三、相木多美代、沖田サツヨ、佐

ちぎり絵展示模様（文化祭にて）

ちぎり絵の展示模様（文化祭にて）

「郷土の傑人顕彰板」の除幕

楽焼の展示模様（文化祭にて）



講師　岡本利道氏
・八ミリ映写会

◇波佐成人学級運営委員
槇田修身、上田房一、榎時男、竹本怜、古和富士子、沖田トシエ、田中タキヨ、隅田正三、隅田哲夫、阿妻博之。
◇会計監査委員
相木正男、橋本幸男。
◇波佐成人学級長　槇田修身。
副学級長　榎　時男。
事務局長　隅田正三（事務担当）。
事務局員　上田房一（会計担当）。
事務局員　隅田哲夫（会計補佐）。

**◎ 五十二年度（第六期）波佐成人学級は、七教室を開講。**

書道教室（講師＝日野原正先生）
部長＝佐々木八重子、副部長＝岡本照子。
受講者数＝十八名、開講日数＝十一日。
学習内容＝日本習字教育連盟のテキストを教材に書写能力を高める学習をする。
皆勤賞＝竹本怜、沖田達知。
精勤賞＝沖田茂、斎藤良治、佐々木フサノ、槇田修身、佐々木八重子、相木律子。
出席率＝六四・七％。

謡曲教室（講師＝平野敏先生）
部長＝上山久男、副部長＝沖田千鶴子。
受講者数＝十三名。開講日数＝三十日。
学習内容＝今年度は、観世流の三級程度の学習を進める。
皆勤賞＝なし。
精勤賞＝斎藤良治、槇田修身、上山久男、小林定雄、沖田千鶴子。
出席率＝六六・九％。

郷土史教室（講師＝山藤忠先生）
部長＝相木正男、副部長＝佐々岡芳高。
受講者数＝十五名、開講日数＝二十日。
学習内容＝ふるさと学習を提唱すると共に文化財の学習、郷土史の研究、及び地元の古文書をテキストに用いて古文書の読解力を養うと同時にその歴史的背景にあるものを学ぶ。
皆勤賞＝なし。
精勤賞＝佐々岡芳高、相木正男、萬代繁一、河崎宏二、相木律子。
出席率＝六五・七％。

楽焼教室（講師＝小林定雄先生）
部長＝隅田哲夫、副部長＝相木律子。

受講者数＝七名、開講日数＝十七日。
学習内容＝昭和四十八年四月から開講し、当初はガスバーナ窯で焼き上げていたが、昭和五十年夏に常磐橋南側に完成した亀遊山窯で窯焼き作品を作る。
皆勤賞＝なし。
精勤賞＝相木律子。
出席率＝七〇・五％。

花き園芸教室（講師を特定しない）
部長＝山崎義高、副部長＝長田和子。
受講者数＝二十名、開講日数＝八日。
学習内容＝波佐地区に水稲以外の特産物を育てようと昭和四十七年四月から特産教室を開催中であったが、分野をせばめ高冷地を活かした切り花生産の育成のための学習を推進するために園芸教室に衣替えした。
皆勤賞＝なし。
精勤賞＝植田常義、槇田綾子、植田房市、塚本八千代、小森重義、沖田トシエ、隅田正三。
出席率＝六五・七％。

ちぎり絵教室（講師＝亀井健三先生）
部長＝上山信人、副部長＝岩田静江。
受講者数＝八名、開講日数＝八日。
学習内容＝日本独特の風雅な手漉き和紙を材料としたちぎり絵の普及のために学習する。
皆勤賞＝能海歌子、岩田静江、相木多美代。
精勤賞＝上山信人、隅田正三。
出席率＝七六・二％。

民謡教室（講師＝小笠原幸江先生）
部長＝斎藤良治、副部長＝竹田聰。
受講者数＝二十八名、開講日数＝二十二日。
学習内容＝島根県の代表的民謡を習得するため安来節を学習する。
皆勤賞＝幸田安子、斎藤良治。
精勤賞＝日高善春、小林ハギヨ、能海歌子、岩田静江、相木多美代、佐々木八重子、沖田サツヨ、相木律子、竹田聰、西坂幸枝。
出席率＝七市・五％。

課外活動（九十六名）開講日数＝四日。出席率＝三二％。

◇深入山ハイキング（六月十九日）
【参加者】
田原治三郎、沖田達知、西林寅夫、槇田修身、槇田綾子、宇田初男、竹本怜、上山均、佐々岡芳高、上山信人、能海俊子、上田房一、岩田暦男、河崎宏二、隅田正三、相木律子、田中タキヨ（十七名）。



◇成人学級文化祭
一般公開民謡教室。一般公開楽焼教室。文化祭記念囲碁大会。文化祭記念素謡会。交通事故写真展（浜田警察署）
◇成人学級キャンドル・サービス（十二月二十日）
◇総合年始会（一月十四日）
◇成人学級閉講式（三月二十六日）
会場　波佐公民館
一　互礼　　一　記念品贈呈
一　開式の辞　　一　講師総評
一　学習経過報告　　一　来賓祝辞
一　学級長あいさつ　　一　祝電披露
一　教育長あいさつ　　一　学級生代表謝辞
一　修了証書授与　　一　閉式の辞
一　皆・精勤賞授与　　一　互礼

謡曲素謡会（美又教室と合同で）

文化祭記念囲碁大会

文化祭の模様

民謡教室発表会（文化祭）

成人学級閉講式（茶話会）

ー 記念撮影 ー

・公開「民謡教室」講師　小笠原幸江先生

・記念講演会『尼子經久公と月山富田城』

講師　郷土史家　妹尾豊三郎先生

◎ 五十三年度(第七期)波佐成人学級は、七教室を開講。

書道教室（講師＝日野原正先生）

受講者数＝十四名、開講日数＝十一日。

部長＝竹本怜、副部長＝植田栄枝。

皆勤賞＝一名（竹本怜）

精勤賞＝六名（沖田茂、佐々木フサノ、岡本照男、植田栄枝、能海存、佐々木光枝）

出席率＝五八・三％

謡曲教室（講師＝平野敏先生）

受講者数＝十一名、開講日数＝三十一日。

部長＝山崎義高、副部長＝小林サチ子。

皆勤賞＝なし。

精勤賞＝六名（竹本怜、佐々木八重子、山崎義高、槙田修身、小林サチ子、小林定雄）

出席率＝五八・四％

楽焼教室（講師＝小林定雄先生）

受講者数＝六名、開講日数＝十日。

部長＝佐田達雄、副部長＝隅田哲夫。

皆勤賞＝一名（美川良恵）

精勤賞＝なし

出席率＝五八・三％

郷土史教室（講師＝山藤忠先生）

受講者数＝十名、開講日数＝十六日。

部長＝佐々岡芳高、副部長＝河崎宏二。

皆勤賞＝なし。

精勤賞＝五名（隅田正三、佐々岡芳高、上田房一、田中タキ代、河崎宏二）

出席率＝六一・一％

ちぎり絵教室（講師＝亀井健三先生）

受講者数＝十名、開講日数＝八日。

部長＝上山信人、副部長＝上田房一。

皆勤賞＝四名（隅田正三、上田房一、上山信人、能海歌子）

精勤賞＝なし。

出席率＝七一・三％

民謡教室（講師＝小笠原幸江先生）

受講者数＝三十三名、開講日数＝二十一日。

部長＝斎藤良治、副部長＝相木多美代。



皆勤賞＝三名（佐々岡スエノ、岩田静江、相木多美代）

精勤賞＝二十名（斎藤良治、佐々木八重子、竹田聰、能海歌子、小林キクヨ、西坂高四郎、小林ハギヨ、幸田安子、佐々岡稔、沖田トシエ、斎藤秀雄、沖田サツヨ、塚本八千代、岡本定友、植田兼男、岡崎勝昭、西坂幸枝、石橋実、坂本弘志、斎藤良喜）

出席率＝六〇・六％

三味線教室（講師＝小笠原幸江先生）

受講者数＝十三名、開講日数＝十四日。

部長＝斎藤良治、副部長＝竹田聰。

皆勤賞＝二名（竹田聰、佐々岡スエノ）

精勤賞＝三名（佐々木八重子、能海歌子、小林ハギヨ、幸田安子、岡本定友、岡崎勝昭、石橋実、斎藤良喜）

出席率＝七四・二％

課外活動（受講者数＝七十名、開講日数＝三日）

出席率＝三〇・九％

◇ 課外活動

《三瓶山ハイキング》六月十八日（日）

【参加者】（二十六名）

槙田修身、榎時男、上田房一、隅田正三、河崎宏二、斎藤良治、能海存、能海歌子、佐々岡稔、幸田安子、西坂高四郎、隅田哲夫、小森重義、田中宅次郎、槙田綾子、塚本八千代、佐々木八重子、美川良恵、佐々岡芳高、佐々岡スエノ、相木ナミエ、小林ハギヨ、田中タキヨ、沖田トシエ、万代繁一、小林定雄、

◇ 観世流素謡会（八月二十七日）

◇ 第四回・波佐成人学級文化祭

と　き　十一月三日

ところ　波佐公民館

公開安来節教室・文化祭記念素謡会・公開楽焼教室・文化祭記念囲碁大会・波佐地区の写真展。

成人学級交流会

三味線教室発表会

講師　大庭良美先生（美濃郡日原町）

◎茶話会

【皆勤賞】（十一名）

書道＝竹本怜、楽焼＝美川良恵、ちぎり絵＝隅田正三、上田房一、上山信人、能海歌子、民謡＝佐々岡スエノ、岩田静江、相木多美代、三味線＝竹田聰、佐々岡スエノ。

【精勤賞】（四十五名）

書道＝沖田茂、佐々木フサノ、岡本照男、植田栄枝、能海存、佐々木光恵、謡曲＝竹本怜、佐々木八重子、山崎義高、槙田修身、小林サチ子、小林定雄、郷土史＝隅田正三、佐々岡芳高、上田房一、田中タキヨ、河崎宏二、民謡＝斎藤良治、佐々木八重子、竹田聰、能海歌子、小林キクヨ、西坂高四郎、小林ハギヨ、幸田安子、佐々岡稔、沖田トシエ、斎藤秀雄、沖田サツヨ、塚本八千代、岡本定友、植田兼男、岡崎勝昭、西坂幸枝、石橋実、坂本弘志、斎藤良喜、三味線＝佐々木八重子、能海歌子、小林ハギヨ、幸田安子、岡本定友、岡崎勝昭、石橋実、斎藤良喜、

◇昭和五十三年度成人学級事業経過報告

五三・五・二　五十三年度開講式

五・一二　謡曲教室を皮切りに七教室開設

六・一八　野外活動（三瓶山ハイキング）

八・二七　観世流素謡会

九・二四　町政懇話会

一一・三　第四回波佐成人学級文化祭

公開安来節教室・文化祭記念素謡会・公開楽焼教室・文化祭記念囲碁大会・波佐地区の写真展

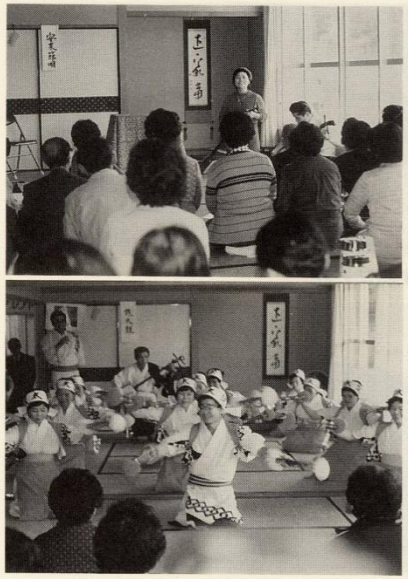
一一・一一　秋期文化財講座後援

一二・二〇　キャンドル・サービス

一二・二四　波佐公民館大掃除

五四・一・一三　波佐成人学級年始会

三・三　町政懇話会



民謡教室の模様



三・一八　郷土史教室・史跡見学会（波佐）

三・二五　五十三年度波佐成人学級閉講式

◎五十四年度（第八期）波佐成人学級は、八教室を開講。

書道教室（講師＝日野原正先生）

開講日（毎月第二火曜日、受講者数＝三十二名）

部長＝沖田茂、副部長＝佐々木光恵

謡曲教室（講師＝平野敏先生）

開講日（毎月第一・二・三金曜日、受講者数＝十六名）

部長＝山崎義高、副部長＝竹本怜

郷土史教室（講師＝山藤忠先生）

開講日（毎月第二・四月曜日、受講者数＝三十二名）

部長＝佐々岡芳高、副部長＝万代繁一

楽焼教室（講師＝小林定雄先生）

開講日（毎月第三水曜日、受講者数＝二十三名）

部長＝榎時男、副部長＝美川良恵

ちぎり絵教室（講師＝亀井健三先生）

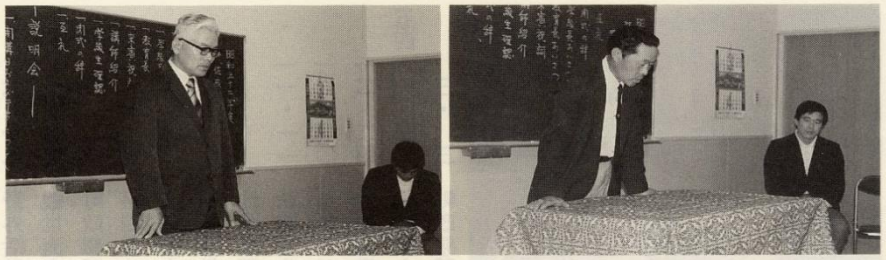
開講日（毎月第四木曜日、受講者数＝十四名）

部長＝上山信人、副部長＝岩田静江

民謡教室（講師＝小笠原幸江先生）

開講日（毎月第一・三土曜日）

部長＝斎藤良治、副部長＝相木多美代



成人学級開講式（S54.5）

成人学級日帰りハイキング（S54.6）

三味線教室（講師＝小笠原幸江先生）
開講日（毎月第二日曜日・第三土曜日）
部長＝竹田聰、副部長＝斎藤良喜
生花教室（講師＝横山洋甫先生）
開講日（毎月第一・水曜日）
部長＝上山勝子、副部長＝隅田小夜子
◇日帰りハイキング（六月十七日(日)）
コース＝松江市（風土記の丘資料館とその周辺）・八雲村（熊野大社・安倍氏紙漉き場見学）方面
【参加者】（十八名）
槙田修身、佐々岡稔、隅田正三、佐々岡芳高、山崎義高、万代繁一、斎藤良治、上田房一、日高善春、小林定雄、古和富士子、沖田トシエ、幸田安子、長田タツヨ、小林ハギヨ、佐々木八重子、岡崎勝昭、佐々岡スエノ。
◇成人学級文化祭（十一月三日(土)）
特別展＝亀井健三ちぎり絵個展。
記念行事＝公開安来節教室。素謡会。囲碁大会。
◇波佐成人学級運営員
槙田修身(学級長)　榎時男(副学級長)　古和富士子(副学級長)
上田房一(事務局・会計)　沖田トシエ　田中タキヨ
竹本怜　隅田正三(事務局・庶務)　隅田哲夫(会計補佐)
佐々木八重子(事務局員)

成人学級文化祭の模様(S54.11)



◎五十五年度(第九期)波佐成人学級は、十一教室を開講。
書道教室（講師＝日野原正先生）
受講者数＝七名・開講日数＝十日。
部長＝能海俊子　副部長＝能海存。
皆勤賞＝二名（能海俊子、能海存）
精勤賞＝一名（沖田茂）
出席率＝七六・〇％
謡曲教室（講師＝平野敏先生）
受講者数＝十名・開講日数＝二十九日。
部長＝山崎義高　副部長＝竹本怜。
皆勤賞＝一名（山崎義高）
精勤賞＝三名（槙田修身、竹本怜、小林定雄）
出席率＝七五・六％
郷土史教室（講師＝山藤忠先生）
受講者数＝十一名・開講日数＝十日。
部長＝佐々岡芳高　副部長＝田中タキ代。
皆勤賞＝一名（萬代繁一）
精勤賞＝二名（佐々岡芳高、田中タキ代）
出席率＝五二・七％
ちぎり絵教室（講師＝亀井健三先生）
受講者数＝十三名、開講日数＝九日。
部長＝上山信人　副部長＝相木多美代。
皆勤賞＝三名（上山信人、日高善春、相木多美代）
精勤賞＝四名（上田房一、岩田静江、斎藤カヨ、植田栄枝）
出席率＝七〇・九％
木版画教室（講師＝石田邦夫先生）
受講者数＝十名・開講日数＝九日。
部長＝上田房一　副部長＝中谷忠夫。
皆勤賞＝一名（中谷忠夫）
精勤賞＝一名（上田房一）
出席率＝五〇・〇％
楽焼教室（講師＝小林定雄先生）
受講者数＝八名・開講日数＝十五日。
部長＝河崎忠　副部長＝岡田治夫。
皆勤賞＝なし、
精勤賞＝五名（美川良恵、河崎忠、岡田治夫、石橋進、石橋紀代子）
出席率＝五九・二％
茶道教室（講師＝横山洋子先生）
受講者数＝十二名・開講日数＝十日。
部長＝沖田茂　副部長＝小林美代子。
皆勤賞＝一名（小林定雄）
精勤賞＝五名（沖田茂、岡田治夫、小林美代子、長田和

子、長田タツ代）

出席率＝六〇・八％

民謡教室（講師＝小笠原幸江先生）

受講者数＝三十名・開講日数＝十九日。

部長＝斎藤良治　副部長＝田原薫　岩田静江。

皆勤賞＝七名（槙田修身、岩田静江、相木多美代、幸田安子、沖田サツヨ、佐々木八重子、田原薫）

精勤賞＝十一名（斎藤良治、能海歌子、西坂高四郎、沖田トシエ、小林千恵美、塚本八千代、岡崎勝昭、西坂幸枝、竹田聰、石橋実、斎藤良喜）

出席率＝五七・九％

三味線教室（講師＝小笠原幸江先生）

受講者数＝十一名・開講日数＝十七日。

部長＝竹田聰　副部長＝斎藤良喜。

皆勤賞＝一名（幸田安子）

精勤賞＝六名（能海歌子、佐々岡スエノ、佐々木八重子、岡崎勝昭、西坂幸枝、竹田聰）

出席率＝六八・一％

銭太鼓教室（講師＝小笠原幸江先生）

受講者数＝二十四名・開講日数＝十日。

部長＝石橋実　副部長＝幸田民子。

成人学級閉講式（S56.3）

皆勤賞＝一名（幸田安子）

精勤賞＝十名（斎藤カヨ、能海俊子、小金仍子、幸田松子、長田和子、岡崎比佐子、沖田トシエ、美川良恵、相木多美代、石橋実）

出席率＝五五・八％

女踊り教室（講師＝小笠原幸江先生）

受講者＝数十名・開講日数＝十三日。

部長＝小金仍子　副部長＝槙田浪子。

皆勤賞＝なし。

精勤賞＝三名（小金仍子、槙田浪子、岡崎比佐子）

出席率＝五六・二％

課外活動（受講者数＝九十七名・開講日数＝七日）

出席率＝三七・一％

【受講者名簿】

沖田茂、斎藤良治、田中香寿美、能海俊子、森下光枝、能海存、山崎義高、槙田修身、竹本怜、小林定雄、隅田正三、田中宅次郎、佐々岡芳高、相木正男、上田房一、田中タキヨ、小森重義、萬代繁一、河崎宏二、上山信人、萬代ひとみ、日高善春、能海歌子、岩田静江、相木多美代、斎藤カヨ、植田栄枝、河崎美代子、上山真澄、小金仍子、中谷忠夫、笹田里子、榎一夫、岡崎比佐子、中谷典恵、隅田小夜子、古和富士子、美川良恵、榎時男、河崎忠、笹田真紀子、

民謡・三味線・銭太鼓・女踊り教室

岡田治夫、河崎君子、小林美代子、西坂高四郎、小林ハギヨ、幸田ヤスヨ、塚本貞義、佐々岡稔、沖田トシエ、小林千恵美、沖田サツヨ、塚本八千代、岡本定友、飯田忠子、佐々岡スエノ、佐々木八重子、小金明雄、植田兼男、岡崎勝昭、西坂幸枝、竹田總、田原薫、石橋実、坂本弘志、斎藤良喜、岡本孝治、沖田達知、長田淡水、佐々木フサノ、岡本一二三、幸田松子、佐々岡良子、西谷サトヨ、藤本敏子、長田和子、橋本サチエ、幸田民子、槙田浪子、加納美代子、隅田静子、横山隆子、上山勝子、横山美佐子、高岡智恵美、塚本朝代、竹田敏江、森定善政、石橋進、石橋紀代子、小林信広、長田タツ代。以上九十二名。延一四九名。

◇波佐成人学級事業経過報告

五五・五・二　波佐成人学級開講式
五・八　民謡教室を皮切りに十一教室を開設
五・二五　野外活動（大根島ハイキング）
七・二七　座談会（地域開発をテーマに）
一一・三　第六回波佐成人学級文化祭
特別展「アマゾンの博物展」
公開安来節教室・文化祭記念素謡会
記念囲碁大会・書道・ちぎり絵・木版画・楽焼・生花・特産品・花き等の展示。
一二・一八　キャンドル・サービス
五六・一・一〇　波佐成人学級年始会
三・九　映画会（郷土史教室）
三・二二　波佐成人学級閉講式
公開安来節教室（唄）
映画会（民芸の旅、心のふれあいを求めて、裸族の河）
茶話会

成人学級閉講式にて（S56.3）



◇【アマゾンの博物展へのおさそい】

皆さんは、南アメリカにある世界最大のアメリカ川はよく知っているでしょう値。私はそのアマゾン川のほとりにあるベレーン日本人学校で三年間勤務しました。その間、皆さんにアマゾンの熱帯雨林に住む小動物を是非お見せしょうと、現地の人に頼んで剥製にしてもらったり、魚などは、自分で剥製にしたりしました。また、休みの日は森に入ってチョウも採りました。

こうして集めた資料ですが、まだ数が少なく、アマゾンの自然を紹介するには、じゅうぶんではありません。けれども実物を見ることによってアマゾンの様子をいく分でも想像してもらえたらと思います。この展示会は波佐文化協会のご好意により私の第二のふるさとである金城町波佐で開催できますことを喜んでおります。

どうかお友だちとさそいあわせておでかけください。

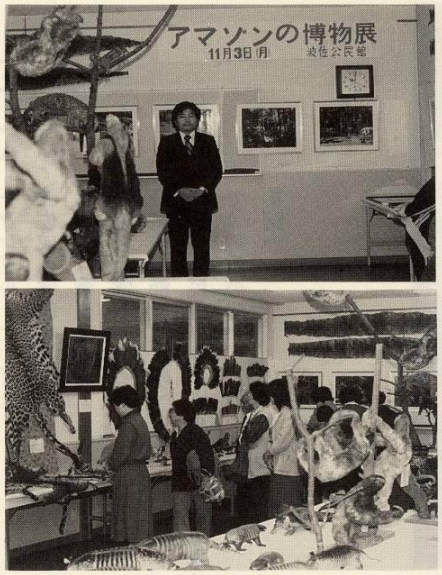
昭和五十五年十一月三日

松江市立津田小学校教諭　奥原省一郎

アマゾンと言えば皆さんはどんなことが頭に浮かびますか。日本と地球のちょうど反対側にあって熱帯の大森林、延々と続く大草原、その間をゆうゆうと流れる世界屈指の大河アマゾン川、この自然の中を走り、泳ぎ、飛びまわる動物たち、興味深いものがありますね。

このたび、ブラジルの日本人学校で先生をされながら、アマゾンの動物を採集され、標本にして日本に持ち帰られた奥原先生の資料を波佐で見ることができるのです。私も皆さんと一緒に心ゆくまでアマゾンの自然に生きる動物たちを満喫したいものだと多いに心をずませています。

波佐小学校長　中村　智




アマゾンの博物展（S55.11）

成人学級閉講式(S56.3)

安来節保存会発会式



◎五十六年度(第十期)波佐成人学級は、八教室を開講。

書道教室(講師＝日野原正先生)
受講者数＝十二名、開講日数＝十一日。
部長＝能海俊子、副部長＝能海存。
皆勤賞＝なし。
精勤賞＝四名(相木多美代、能海俊子、沖田茂、田中タキ代)
出席率＝六〇・六%

謡曲教室(講師＝平野敏先生)
受講者数＝八名、開講日数＝十九名。
部長＝小林定雄、副部長＝小林サチ子。
皆勤賞＝なし。
精勤賞＝三名(山崎義高、竹本怜、小林定雄)
出席率＝七四・七%

郷土史教室(講師＝山藤忠先生)
受講者数＝八名、開講日数＝九日。
部長＝佐々岡芳高、副部長＝萬代繁一。
皆勤賞＝一名(小森重義)
精勤賞＝二名(佐々岡芳高、萬代繁一)
出席率＝五〇・〇%

楽焼教室(講師＝福郷柳仙先生)
受講者数＝十一名、開講日数＝十二日。
部長＝美川良恵、副部長＝石橋進。
皆勤賞＝一名(美川良恵)
精勤賞＝二名(相木ナミエ、石橋進)
出席率＝六〇・四%

ちぎり絵教室(講師＝特定なし)
受講者数＝十二名、開講日数＝九日。
部長＝上山信人、副部長＝石橋真澄。
皆勤賞＝なし。
精勤賞＝五名(能海歌子、岩田静江、相木多美代、上山信人、石橋真澄)
出席率＝五〇・〇%

木版画教室(講師＝清水馨先生)
受講者数＝十名、開講日数＝八日。
部長＝中谷忠夫、副部長＝笹田里子。
皆勤賞＝なし
精勤賞＝三名(日高善春、上田房一、中谷忠夫)
出席率＝七一・四%

茶道教室(講師＝横山洋子先生)
受講者数＝九名、開講日数＝十日。
部長＝横山隆子、副部長＝河崎君子。
皆勤賞＝四名(沖田茂、河崎君子、佐々岡ヨシ子、能海俊子)

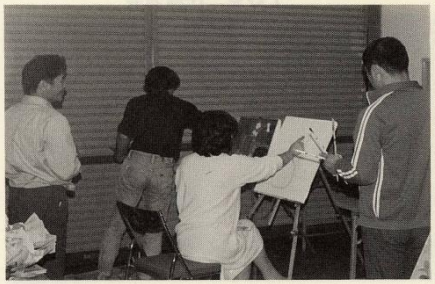
精勤賞＝二名（長田タツ代、小林美代子）
出席率＝七七・五％
絵画教室（講師＝小林定雄先生）
受講者数＝四名、開講日数＝八日
部長＝岡田治夫、副部長＝吉田サツ子。
皆勤賞＝二名（河崎忠、岡田治夫）
精勤賞＝一名（吉田サツ子）
課外活動（受講者数＝六十名、開講日数＝三日）
出席率＝三二・八％

【受講者名簿】

沖田トシエ、相木ナミエ、田中香寿美、能海俊子、萬代ひとみ、能海存、南屋肇、能海克也、斎藤良治、森定善政、佐々木八重子、田中ユキ、福田ヨシエ、隅田正三、沖田茂、笹田真紀子、山崎義高、長田タツ代、槙田修身、竹本怜、小林定雄、小林サチ子、田中宅次郎、西坂高四郎、上田房一、小森重義、萬代繁一、岡本利道、古和富士子、美川良恵、榎時男、横山隆子、河崎忠、広中進、石橋進、岡田治夫、岡本恵子、岩田静江、相木多美代、塚本八千代、斎藤カヨ、上山信人、河崎美代子、塚本朝代、石田好子、上山真澄、植田栄枝、日高善春、加納美代子、笹田里子、中谷典恵、上田敏文、河崎君子、佐々岡ヨシ子、小林美代子、上山勝子、吉田アツ子。

版画教室の模様

ちぎり絵教室の模様


絵画教室の模様

茶道教室の模様



◇【波佐文化祭特別展】

「ラマの都チベット写真展」

とき　昭和五十六年十一月三日～八日
ところ　波佐公民館
主催　波佐文化協会・波佐公民館
後援　金城町教育委員会

「写真展にあたって」

中国の南西奥、ネパール、インド、ブータンに国境を接するチベット。南をヒマラヤ山脈、北を崑崙山脈に囲まれたその地はチベット仏教の世界であり、長い間、外国人禁制政策によって秘密のベールに包まれてきた。

世界の屋根、秘境チベット、彼の地を踏み得た日本人は河口慧海・能海寛・青木文教等十指に満たぬ人々であった。

一九五一年、今から三十年前、中国人民解放軍が首都ラサに進攻、中国本土を結ぶ二千キロの道を拓き、やがて成都～ラサ間にも空路も開かれた。一九六五年、中国チベット自治区が誕生。しかし、チベットへの扉は外国人に開かれることがないままであった。

今年の春、外国人TV取材陣として世界で初めてチベットを訪れる機会を得、五十日間を中国登山協会の特別な計

チベット写真展

上野克二氏講演会

成人学級文化祭（S56.11）

らいで旅する事が許された。

能海寛など我々日本人の偉大な先達の踏みしめたその同じ大地に今我々が立っているという深い感激が終始離れることはなかった。この写真はテレビ取材の間を縫って撮影したものであり、記録写真としては十分なものではもとよりないが、彼の地に万感の想いを残して倒れた巨星・能海寛を偲ぶよすがとなれば幸いである。

昭和五十六年十一月三日

NHKチベット取材班

上野克二

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

チベットの風景・風俗・寺院など約八〇点の貴重な写真を展示して、能海寛のチベット仏教求道の神髄にふれようとする特別展を開催しました。

◇記念講演

「世界の屋根・ラマの都をたずねて」

講師＝NHK大阪報道局

上野克二プロデューサー

◇ 波佐成人学級年始会（一月九日）

◇ 第十期・波佐成人学級閉講式

と き　三月二十八日（日）

ところ　波佐公民館

式次第

互礼

開式の辞

学習経過報告

学級長あいさつ

教育長あいさつ

修了証授与

皆・精勤賞授与

記念品贈呈

講師総評

来賓祝辞

祝電披露

学級生代表謝辞

閉式の辞

互礼

◇ 映画会及び懇談会



波佐成人学級事業経過報告

◇ 波佐成人学級開講式（五月八日）

◇ 野外活動（津和野町へハイキング・六月十四日）

◇ 大菊のハチ栽培講習会（六月十五日）

◇ 映画会（六月二十二日）

◇ 波佐成人学級文化祭

と き　十一月三日

ところ　波佐公民館

主 催　波佐文化協会・波佐公民館

後 援　金城町教育委員会

展示物　書道、楽焼、ちぎり絵、木版画、絵画、生花、俳句、短歌。（学級性作品）。

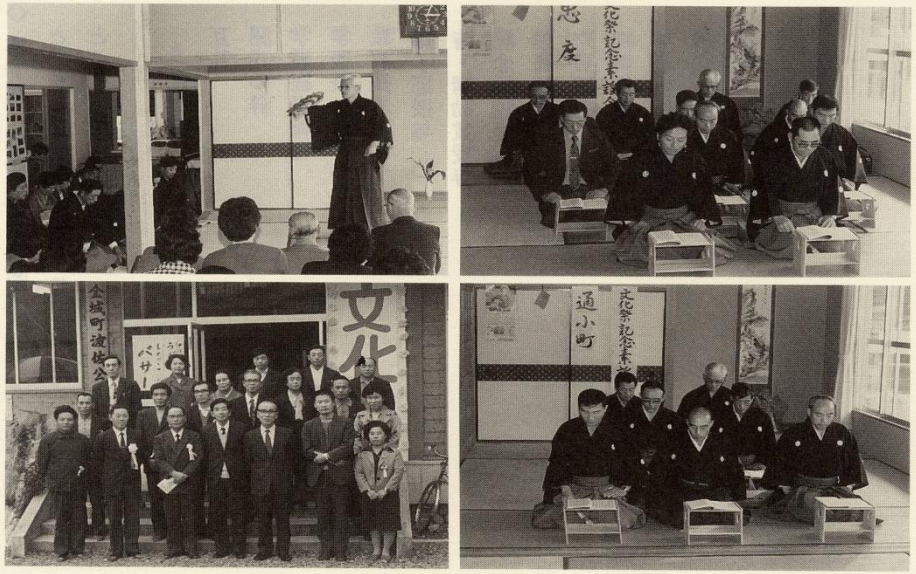
特産物、民芸品、手芸品、園芸品、菊花、写真、その他。（社会教育関係団体及び一般作品）。

行 事　文化祭記念素謡会（美又謡曲学級からも参加）

お茶会

波佐文化協会一〇年のあゆみ写真展

バザーの開店・シクラメンの即売会




成人学級文化祭（S57. 11）

### (3) 波佐公民館と共に歩む

昭和四十七年度にスタートした波佐成人学級も翌四十八年度になると学級数も六教室となり順調に滑りだした。学習する会場もいつまでも「青空公民館」ではとてもやって行けないと学級生からも熱い要望が出て、波佐地区へ公民館を設置してもらうための陳情書を町議会へ提出することになった。

町では四十九年度に公民館を竣工させるべく英断を下し、早速建設委員会が設置され設計前の打ち合わせが行われた。我々としては部屋数を多くしてほしいこと、災害時の非難場所としての和室二十畳の部屋及び風呂場の確保、大集会室、調理実習室、図書室、青年研修室、談話室、事務室は各種団体も含めて四つの机が入るスペース、文化祭などでの展示ができる配慮などを要望した。

昭和四十九年五月に公民館が竣工した。真新しい公民館に宇田初男主事を迎えて公民館がスタートした。しかし各部屋の机と椅子は未整備で和室に一〇脚の和机のみの備品であった。事務室は宇田主事の前任地の波佐支所から木製の机を持参しての淋しいスタートであった。八月になると金城町の消防特別検閲式が行われ、それに使用された机と椅子が公民館へ届きやっと公民館らしい佇まいとなった。

楽焼教室の作品展

木版画教室作品展

成人学級閉講式(S57.3)

平野先生へ記念品



昭和五十年四月になると町職員の公民館主事が引き上げられ、民間委託を波佐文化協会へ打診された。町内に先駆けて建設された経緯もあり、人件費の面でスリム化をと考えられたのであろうが、公民館の民間委託などはたして、良いものであろうかと当時は危惧したむきもあった。一旦引き受けたからには立派に運営をしようと社会教育法の中の公民館関連通達を徹底的に勉強した。

先ず、政治色を出さない、思想的色彩の無いもの、営業的行為の無いものということで再三にわたり協議を重ねて、諸般の事情を考慮して受託することに決定した。

波佐公民館では飲酒は一切禁止するという方針を打ち出した。当初は反対意見も多少はあったけれども、結果的には十九年間にわたって禁酒が守られたのである。飲酒が無いため気楽に使用ができると好評であった。また一カ所ぐらいは禁酒の所があっても良いという意見が大半を占めた。公民館館長は文化協会会長が無報酬でこれに当たり、公民館主事は文化協会専任雇用職員ということで対応した。勿論文化協会理事会のメンバーであった公民館運営委員を組織してサポートしてきたのである。

波佐成人学級も文化協会が昭和五十六年度まで主催運営をしてきたが、一応十年間運営して社会教育の振興という初期の目的を達成したので、波佐公民館事業として公民館主事に成人学級の運営の全てを委譲していった。

永年使い慣れた公民館も狭隘となり、どうしても大集会施設が無くては活動に支障があるため、昭和六十年十二月二十八日付けで金城町長あてに「要望書」を各種団体連絡協議会（二十三団体連署）提出した。地域コミュニティの場として、五十名以上で屋内の文化活動や各種集会、講演会を開くには、狭隘で他に会場を求めざるを得ない現況であった。いきおい波佐小学校屋内体育館に限定されるが、学校教育施設でもあり、体育館としての機能が中心であるため、音響効果も悪く、初期の目的を達成し得ない現況であるため、大集会室（ホール）設置について地区民を挙げての強い要請があったものである。

要望書を提出して八年目の平成五年度に「ときわ会館」として公民館が改築された。この改築により波佐文化協会の十九年間に亘る波佐公民館の管理運営は平成六年三月三十一日を以て終了したのである。

この間、歴代の公民館主事として二代目から横山洋子氏、佐々木八重子氏、相木正男氏、笹田真紀子氏、塚本朝子氏、槇田静子氏、上山均氏、萬代ひとみ氏、田中タキヨ氏にはそれぞれ、ご尽力をいただいた。この誌上を借りて衷心より厚く御礼を申し上げる次第であります。

波佐文化協会は、十九年間に亘る公民館の管理運営に対して金城町教育委員会より感謝状が伝達された。

# 文化講演会　講師：早川一光先生
# 「とおりゃんせ」～この道はいつか通る道～

石峰＆抱月のふるさと金城町

# 「地域まるごと博物館」

http://www.hazaway.com

波佐文化協会　2015．12．20作製